

バンドン工科大学国際サマースクールで特別講義を行いました (2024/8/8)

テーマ：健全な建物と環境のためのスマートシステム
会場：オンライン（バンドン、インドネシア）

2024年8月8日に、インドネシアのバンドン工科大学国際サマースクールにおいて、災害医学研究部門の江川新一教授（災害医療国際協力学分野）がオンラインで特別講義を行いました。

このサマースクールはバンドン工科大学電子・情報工学部、建築・設計・政策開発学部、芸術学部が共同で開催するもので、8月1-15日にオンライン講義、8月16-20日にワークショップが開催されるものです。キートピックとしては、スマートヘルスケアシステム、環境とヘルスシステムの連携、健康・環境とサステナビリティ、デジタル環境づくり、デザインと技術と健康などが挙げられており、広い専門分野の学生・教員の参加が45名ありました。

江川教授は、講演中に参加者の意見をリアルタイムで集約できるソフトウェアを用いて、講義を双方向性にすすめ、災害リスク、災害が健康に及ぼす被害、レジリエントな社会構築にむけた仙台防災枠組とWHOの災害・健康危機管理枠組について説明し、要所ごとに参加者からの意見を集約しました（下図参照）。

参加者からは、スマートセンサーがどのように防災や災害対応に活用できるかについてさまざまな意見が集まりました。スマートセンサーのゴールドスタンダードは何かという質問もあり、むしろ専門家ではない江川教授は、「スマート」という言葉の意味するところを、測定の対象となる人や物が意識しない状態で測定（センシング）がなされること、個人情報保護した状態で、集計や比較が可能であること、標準のデータ出力形式を取り入れることにより開発者・販売者・研究者が共通のプラットフォームで情報交換できることなどの重要性についてコメントしました。

保健医療以外の分野の参加者からも高い評価が得られ、サマースクールが有意義になることに貢献できました。



サマースクールの告知



参加者から寄せられた災害リスクに関するワードクラウド（言葉の雲）